

# 令和4年度 事業報告

## 法人事業概要

令和4年度は、オミクロン株が主流となった新型コロナウイルス感染症に対し、「マーシ園の新生活様式」を定着させながら、感染症に強い施設づくりに努めました。12月には八乙女においてクラスターが発生しましたが、利用者と職員が一丸となって感染拡大防止に努め、隣接施設に飛び火することもなく、全員が元気に回復することができました。これからも引き続き、基本的な感染症対策を徹底し、利用者の皆様が安心して生活できる感染症に強い施設づくりに努めます。

「八乙女移転新築」については、年末に基本設計業務を終え、農地転用や開発行為許可申請を済ませ、いよいよ令和5年度には敷地造成工事を予定しております。昨今の物価高騰に伴い、全体事業費が当初の見込みに比べ4億円以上増高しており、財源確保に苦慮しておりますが、国県をはじめ地元南砺市、砺波市、小矢部市、福祉医療機構等のご理解により何とか財源の目処を立てることができました。八乙女の移転までには、各事業の持続可能な運営体制を構築すべく、将来を見据え、高齢化、重度化、多様化等に対応した生産活動のあり方をはじめコンパクトな組織体制を整えてまいります。

令和3年度から休眠預金を活用し取り組んできた「ひきこもり支援事業」は、地域づくり協議会におけるモデル事業や研修講演会等を実施し、総働体制の構築や情報発信を行いました。その結果、2年間で約30件の相談があり、うち何件かは就労に結び付くなど一定の成果を上げることができました。2か年の事業期間は終了しましたが、国県の補助をいただきながら、引き続き引きこもり支援事業を継続してまいります。

新型コロナ、ロシアのウクライナ侵攻とそれに伴う物価高騰など、世界情勢が激動し、目まぐるしく変化する時代が続いていますが、今後とも役職員が心を一つにして、当法人が目標とする将来像「選ばれる法人、利用し続けたい法人」を目指し、運営してまいります。

## 法人財務状況

令和4年度は事業活動による収支では、八乙女において新型コロナウイルス感染症のクラスター発生により通所を約1か月間休業したことや、年間を通して入所者の入院が重なった等の影響により、サービス活動増減差額は12,526千円の黒字にとどまり、前年度に比べ29,027千円減少しました。

就労支援事業収益いわゆる授産製品の売り上げは、感染防止用のアクリル板の減少や景気低迷による共同作業所の受注減の影響から2,932千円減少し、16,806千円となりました。

施設整備の面では、八乙女の移転新築に係る建物の基本設計、敷地造成工事の実施設計を終えたほか、八乙女のナースコール増設や木の香の送迎車両の更新により、利用者の安全性・利便性の向上に努めました。

法人全体の財産の内訳は、資産の部で現金預金等の流動資産総額502,492千円、土地、建物、備品等の固定資産総額1,083,935千円で、資産合計は1,586,427千円となっております。

負債の部は、流動負債総額82,772千円、固定負債総額4,049千円で、負債合計86,821千円となり、差し引き純資産は1,499,606千円で、前年度末比7,476千円減となりました。